



## 30周年記念行事開催 運動の継承と創造を力強く宣言

1993年に組織統一を果たしたJR九州労組は、今年3月6日に結成30周年を迎えた。この間の取り組みを振り返り、今後の運動の糧とすべく30周年事業を行っているが、その一環として9月7日に記念シンポジウムと記念式典を開催し、来賓をはじめ各級機関の組合員など約120名が出席した。



1部の記念シンポジウムでは政策課題の実現に向けて現状の把握と大分大学の井上尚司教授による基調講演、南阿蘇鉄道株式会社取締役社長であり高森長町長の草村大成社長による特別講演があり、その後は井上教授をコーディネーターとしてJR九州の上符友則執行役員、JR九州労組の吉田春菜政策部長を加えた4名で「新たな時代における鉄道の発展と、JR産業の持続的成長にむけて」をテーマにパネルディスカッションを行い、様々な視点から地方公共交通に関する課題や取り組みについて共有を図った。



2部の記念式典では、吉田祥司中央執行委員長は挨拶で、結成30年にあたり組織を牽引してきた諸先輩をはじめ、関係団体各位の支援と温かい激励、すべての組合員の理解と協力に感謝の意を表すとともに、「株式上場をはじめとする会社の成長や自然災害による被災、感染症の拡大といった危機的状況乗り越えて来れたのは業務効率化を含む、JR九州労組の理解と協力の賜物であったと確信している」と運動の成果を強調するとともに、「働き、要求し、その実現にむけて運動するという作風を大切に、将来に亘って誇れる組織を築き上げていこう」と訴えた。

式典には数多くのご来賓が出席し、連合福岡の山下優一副事務局長をはじめ古宮洋二JR九州代表取締役社長、JR連合国会議員懇談会幹事の原口一博衆議院議員、大串博志衆議院議員、荻山市朗JR連合会長、第2代中央執行委員長の安井俊幸氏から激励の言葉を頂戴した。

最後は、JR九州労組大久保浩書記長が「未来への誓い」として、次の30年を見据えた強くしなやかなJR産業の創造のため健全な労使関係による「協力と対立」の理念で築き上げられてきた運動の継承、そして新しい時代にあった運動の創造により今後も歩み続ける決意を表明し閉会した。

